

Afghanistan

アフガニスタンの現状

8月半ばに政権が変わったアフガニスタン。それから3ヵ月が過ぎた首都カブールでは、幸いにも当初予想されたような大規模な虐殺などは発生していない。他方で新政権の能力不足・経験不足は、これからのアフガニスタンという国のかじ取りをきわめて困難にしている。世界寺子屋運動を進めてきた日ユ協連カブール事務所も閉鎖状態になっている。

いまカブールに暮らす人びとの一番の懸念は、生活がだんだん困難になってきていることだ。銀行預金を引き下ろすには、長い行列に並ばないと窓口までたどり着けない。窓口にとど

着いても、預金残高の5%しか引き下ろせない状況が続いている。また、近ごろはしょっちゅう停電が起きている。プロパンガス価格も高騰し、政変前の倍以上になってきた。このままでは最々底辺国化してしまうのではと、アフガニスタンの復興に関わってきたアフガン人は大きな危惧を抱いている。

アフガニスタンの人びとに何かできることはないか。非常に限られた選択肢のなか、日ユ協連では可能な手段を探している。
(第2事業部：関口 広隆)

カブール事務所 ヤマ・フェロジ所長からのメッセージ

日本の皆さま。日ユ協連カブール事務所所長のヤマ・フェロジです。

私は2002年からカブール事務所で働いています。これは私の人生の中で最も重要な一章です。仕事で何度か日本を訪れましたが、日本の人びとや文化について多くを学ぶことができ、日本を第二の故郷と考えています。

私は自分の仕事や、国民や国のためにしてきたことを誇りに思っています。カブール事務所では、何千人ものアフガニスタン人に教育と収入を得る機会を提供し、最も恵まれない人びとのために寺子屋を建設したことは、皆さんご存じのことと思います。

しかし、約3ヵ月前、私たちの生活は一変しました。すべてが一日で崩壊したのです。8月15日にタリバンが権力を握って以来、安全上の理由からカブール事務所は閉鎖されました。国際的機関で働いていた人びとが危険にさらされているため、私たちも不安な日々を過ごしています。

当初は、すべてがうまくいこうという希望もあり

ましたが、いまではほとんど希望がないようです。教育部門は他の部門と同様崩壊し、教師には給料が支払わ

れず、貧困は増大し、書ききれないほどたくさんの難しい問題が日常的にあります。20年間の努力と結果が消えてしまい、私たちが教育を提供した何千人もの人びとが無力になってしまったということもあります。

いま、状況はより深刻になっています。私たちが最優先するのは、自分自身と家族の安全です。国際機関で働いていた何人かの人と連絡を取っていましたが、彼らが全員避難したことを知ったとき、私がここで生活し働く希望は残されていませんが、状況が許す限り、国民と国のために働くことを約束します。

最後になりましたが、皆さまのご支援に感謝いたします 🙏❤️。
カブールのヤマ・フェロジ

カブール市内のようす (撮影:ヤマ所長)



 現地スタッフへの“絆メッセージ”をお寄せください

アフガニスタン事務所には、現在10名のアフガニスタン人職員が在籍しています。現地職員への絆メッセージを、下記メールアドレスまでお寄せください。いただいたメッセージは事務局で取りまとめの上、翻訳し、現地事務所へ送ります。以下の項目を明記の上、200字以内、写真や画像は1枚以内で。締切は2022年2月末日。

[送 り 先] kikaku@unesco.or.jp (企画部 広報課 機関誌担当宛)

[必要事項] ■ 件名: 絆メッセージ

■ 会員種別 (①ユネスコ協会・クラブ ②維持会員 ③賛助団体会員 ④個人会員 ⑤一般(メルマガ登録者・学校・ご寄附者など))

■ 所属名(ユネスコ協会・クラブ名/企業・団体名など)

■ 氏名およびフリガナ ■ メッセージ: 200字以内

※団体・個人は問いません ※現地職員からの個別のお返事は差し控えていただきます

message